

第1回水と緑の森づくり会議（H29.5.18） 議事概要

○亀井委員

- ・ 県民の汗する姿、県民活力が事業に表れているかどうかという視点で評価した。
- ・ 企画から実行まですべてが委託になっている提案、住民の自主活動が見えてこない提案は評価を低くした。自ら整備することで、自然に対する愛情がわくのだと思う。いくつかの提案で、最後に住民による植樹を計画されているが、竣工式のテープカットみたいな感じがして、住民の熱意や苦勞が見えないように思った。

→（事務局）委託は交付率が10/10と高くなるため、委託の提案が増えてしまうのかと思う。委託頼みで住民参加が見られないものは当事業にはふさわしくないと考える。提案書の文字や金額だけでは見えない部分については、住民参加があるのか地方機関と確認したうえで採択について判断させていただく。

- ・ 鳥獣害の緩衝帯設置を目的とするような事業は評価を低くした。
- ・ 小学校では森林学習が教科の学習内容と重なるため取り組まれやすい。中学生以上になると総合学習でしか扱えないため森林学習に取り組みにくくなってしまう。また、小学校で体験したことを、自ら考え実践につなげられるようにしないと、次世代につながらないと思うので、その点は教育者の立場として重く受けとめたい。

→（事務局）森林学習のすべてを学校の中で行うことは限界があるので、自治会やNPO法人等の活動組織の手を借りながら、行政として何ができるか考えないといけない。

○川上委員

- ・ 竹林整備の提案がたくさんあるが、各団体の担当者が重複していたり、事業経費が同じ金額だったりするので、相見積もりをとるなどして内容が妥当かどうか精査する必要があるのではないか。経過状況を行政で毎年確認した方が良いのではないか。

→（事務局）経費が高すぎる竹処理の提案については内容を確認していきたい。竹については提案に地域的な偏りが見られるが、予算内で採択可能であれば、要望を聞いてもよいと考える。事業の継続的な確認については、実施後4年間は事務局へ写真等を付けた報告書を提出することになっており、そこでチェックをしている。

- ・ 人件費の割合が高い提案についても精査が必要かと思う。
- ・ 農業関連の提案については、当事業ではなく農業施策で取り組むなど、指標が必要に思う。
- ・ 植樹祭でマツやサクラを植える提案が多いが、植樹後の苗木の定着率が気になる。苗木

にも適地適木があるため、色々な樹種を植えてみても良いのではないかと。特用樹や山菜など、自分も今後取り組む方へ指導ができたらと思う。

→（事務局）植栽木については、地域の普及員がアドバイスできるようにするなど、ご意見を還元したい。

○平井委員

・自分の住む地域で実施されている活動を知らなかったことが一番印象的だった。参加住民が男性に偏っていて、地域内の活動を女性や子供が知らなかったり、同じ自治体から複数の団体の提案が出されていたりすることも疑問に思った。

→（事務局）事業 PR については事業主体にもお願いしているが、事務局としても PR 不足を常日頃感じているので真摯に受け止めたい。住民参加について、参加者の多様性という視点は非常に重要であり参考にしたい。参加者によって委託費の必要性なども変わってくると思うので、改めて提案内容を見直したい。

・人手不足や高齢化を理由に委託をする団体は今後さらに増えていくと思うので、やり方を考えていく必要がある。

・子どもを巻き込んだ内容が多くてよいと思うが、小学校時代の単発の経験で終わらせるのではなく、大人になるまで継続して植林体験をしていった方がよいと思う。

○伊藤委員

・自治体の予算でできないものをこの事業に提案しているようなものは、できない理由を正直に言った方がよいと感じた。一方で、公園整備など自主事業でやるべきものは、住民主体ではないという点で厳しく見た方がよいと思った。

・自治会の安全管理に関する提案があったが、本来は自主財源で対策すべきだし、できないのであれば自治体に意見をあげるべき問題だと思う。本来請け負うべき部署が知らないところで、この事業が進んでいくのはどちらにとっても不幸だと思う。事後でもいいから、自治体のコメントがあるといいと思った。

→（事務局）自主事業か住民参加かの線引きについては、自治体がどこまで承知しているのか個別に確認したい。

・書類だけだと実態がわからないので、現地視察をして審査した方がよいと思う。

・高齢化を理由に委託をあげている申請については、知っている人にしか支援できないのは不平等だと感じたし、その支援に県税を使うのは違うと思う。

・個々の事業主体で参加者を募るのは難しいので、事務局が広報や PR の中間支援をきちん

としないといけない。また、難しい書類作成や事業構築のためのアドバイザーが必要に感じた。事業主体が県民に対してうまく PR する方法を整理できれば、この事業がより税金を還元しているといえると思う。

→（事務局）PR については、県の報道発表や、地域の普及員と一緒に PR 活動するなどお手伝いできる部分があると思うので取り組みたい。

・各地域の事業成果を情報整理して広く紹介できれば、人集めにも、森を見るきっかけにもなると思う。

・4、5月の下刈りや森づくりがしやすい時期に事業に取り組めた方がいいと思った。

・アドバイザーについては、地域の普及員や森林インストラクター、NPO 法人など様々な分野の方とマッチングを図り、提案をより良いものにできるようアドバイスできるようにしたい。

→（事務局）スケジュールについても、会議の時期を早めれば早く事業に取り組めるので、できる範囲で来年の課題としたい。

○中島委員

・イベント的な提案がすごく多く、果たして公益性や次世代への波及性があるのか疑問を持った。イベントや、やりたい事ありきの提案に、事業目的が付け加えられているため、体験後に事業の本来の目的が達成されているのか疑問を感じた。

→（事務局）ご指摘のとおり、事業の目的が後付けになっている場合はある。本来の目的をきちんと理解してもらった上で、子どもを取り込んでもらうなどの指導をしていきたい。

・高齢化で整備が困難になっている問題は全県・全国的なものであり、この事業で一部の地域が解決されても、全体の問題解決にはならない。

・事業を「楽しかった」で終わらせず、中高生の職業観につなげられるように、林業は魅力的で必要とされていることを子どもたちの中に育てていかないと、高齢化問題の解決につながらないと感じた。

→（事務局）意見交換をさせていただきながら、対象世代を広げるなど効果的な手段を検討していきたい。

○和田委員

・すべての提案に必要性や緊急性を感じたし、周囲の山が荒れている状況を見るにつけ、すべての団体に取組んでもらい、活動を後押ししたいと思った。そのうえで、成果を上げ

るための指導やチェックをしっかりとすべき。

- ・事業成果として山がきれいになると、地域の歴史発掘や郷土愛の醸成につながったり、他の里山をきれいにする意識が醸成されたり、波及的な効果があると思う。

→（事務局）単なる森づくりだけでなく、文化などを絡めている提案については前向きに審査したいし、実態を知らなくても内容を読み取りやすいように提案書の様式を工夫するなどしていきたい。

- ・タケノコの伐採時期は短いので、申請から採択までを早める必要がある。

→（事務局）竹の取り組みが多い中で、タケノコの伐採は住民がより身近に取り組んでもらえると思うので、採択時期については検討していきたい。

- ・講師謝礼にばらつきがある事も気になった。

→（事務局）謝礼については、現在 5 万円以下という規定しかなく、同じ方で金額が違う場合にはその意図を確認している。事務局から基準を示した方が良いかどうか難しいところがあるため、相談しながら提案していきたい。

- ・活動団体から、竹の有効な整備方法や学校林の歴史などを含め、事業の成果を PR してもらったらどうか。

○白築委員

- ・鳥獣害対策については全国的なことなので、みーも事業ではなく国や県の有害鳥獣駆除分野から補助金をもらった方が、一部の手当てだけに終わらなくてよいのではないかと思った。

- ・植樹祭でサクラを植える所が多いことにはどうかと思う。植えるのであれば、地域に点在しているサクラの場所が分かる「桜マップ」を林業の分野でつくれば、観光客を呼ぶ材料になるのではないかと思った。

→（事務局）桜をはじめ、今までの事業の蓄積や今後出てくるおもしろい取組をまとめて PR していくのに、桜マップというアイディアは参考にさせていただきたい。

- ・女性目線の提案で、森を通して参加者の心の交流を図る活動は良いと思った。

- ・古墳に絡めた森林整備も、マップの作製など全国的にいる遺跡マニアに向けた発信ができれば、地元の弾みにもなると思う。

- ・提案者によるプレゼン大会をすれば、紙面で審査するよりも公平性が出るのではないか。

- ・活動をカテゴリーで分けて、団体同士の横のつながりを行政でコーディネートすると、事業全体が盛り上がるのではないか。